

News of Peace No.3

発行：桜区平和を考える会 2016年8月1日

●厳しい状況だからこそ生まれる新しい動き

7月の参院選の結果で肩を落とした人は多かったのではないのでしょうか。改憲勢力に3分の2の議席を許し、埼玉選挙区でも目指していた3議席中、野党2議席は実現できませんでした。

しかし、落ち込んだり、あきらめたりすることはありません。

今回の選挙の特徴は2つあります。1つは、野党共闘です。全国32すべての一人区で野党統一候補を立てることができ、その内の11人が当選しました。3年前、2013年の参院選では一人区で4野党（民主・共産・社民・生活）からの当選者はゼロで、護憲派はかろうじて沖縄の糸数慶子さんのみでした。

改憲勢力に、今回（ギリギリですが）3分の2の議席を取られたのは、2013年の参院選で負け過ぎたからと言えるでしょう。もしも、2013年から野党共闘が行われていたならばここまでの結果にはならなかったはずです。また、比例区得票数を見てみると、民進党は460万票、共産党は85万票、社民党28万票、生活の党が12万票増やして野党四党合計約585万票も増やしました。他方、自民党は160万票、公明党は8千票の増加に終わっているのです。

2つ目は、政党やその支持者ではない一般の市民・国民が自ら係った選挙でもありました。この間、原発事故、安全保障関連法（戦争法）、憲法改悪等の問題に対し立ち上がって抗議活動を行ってきた人々が、その解決を目指すために政治に係る事、そして、選挙に係る事の重要性に気づき、積極的に動き始めたのです。全国的には、ママの会や市民連合、埼玉でもde-coの会や市民勝手連などがありました。

今回の選挙では、このような市民の動きが各地で生まれ、それぞれが大きくなっていけば、国の政治や社会を根底から変えていく力になると思います。

状況は、確かに追い詰められてはいるのですが、何かが新たに始まったと期待も持てる選挙でもありました。

私たちの未来はこれから国民がどう動くかで決まっていくのだと思います。

僕もそう思う。
応援するニャー！



●第1回桜区市民講座（報告）

「アベノミクスとは—あなたの生活はどうか？」

主催：桜区平和を考える会

講師：埼玉大学経済学部准教授 結城剛志氏

6月19日（日）当日は、34名の方が参加。



多くはチラシを見ての参加者で、当日初めてお会いする方がほとんどでした。結城先生の講演の概要を紹介いたします。

参議院選挙の前、安倍首相は記者会見をし、アベノミクスは道半ばであり、エンジンを最大にふかしデフレからの脱出を目指すと宣言いたしました。そもそもアベノミクスとの三本の矢とは何だったのでしょうか？ 1. 大胆な金融政策、2. 積極的な財政政策、3. 民間投資を喚起する成長戦略でした。

この、アベノミクスとは包括的かつ大胆な経済政策であるが、しかし経済・金融政策はタダでできるものではなく、税金・借金（国債に発行）の大規模な投入で可能なものです。この4年間で支払ったコストは320兆円。これは政府の借金だが将来は国民が支払わなければならないものです。この政策で国民の暮らしはどのようになったのでしょうか？ 雇用を創り出し、所得が増えたのでしょうか？

このアベノミクスでは、デフレからの脱却をして国の富を拡大しようとしていました。ところが、物価上昇を織り込めば資産家は投資するが、一般の人たちは消費を控えることになってしまふ。経済政策には、長期にわたって人々が安心して暮らし働ける環境づくりが求められるのに、なぜか直接生活を良くする手段をとっていない。むしろ、実質賃金の低下・世帯収入の減少、生活保護費の切り下げ、子ども手当の削減、労働者派遣法や労働契約法による非正規雇用の増加など、不安を増す方へと政策が進められている。

平均所帯所得は減少傾向にあり、非正規労働者の比率が37%にも達し、平均賃金（月額）は正規労働者の37%少ないという。景気が良くなったからといって生活が良くなる構造にはなっていない。株や不動産が値上がりすることによって潤うのは、株や土地を持っている人で、持たない人との間の格差が広がってしまっている。人は景気で暮らすのではなく所得で暮らすとの指摘に納得です。

アベノミクスは大企業・富裕層優遇政策との批判に、政府が持ち出してきたのが「トリクルダウン（富が滴り落ちる）」効果です。企業と資産家が儲かる⇒儲かったお金を使う⇒庶民も潤うはずという理論だが、これは希望や期待に過ぎず、経済学的に証明されたことはないとのことで、実際このような現象は起こらなかったと指摘されました。

また、マイナス金利の導入は、庶民の金融資産への利払いを激減させつつ、

企業の投資拡大、庶民の消費の増加を狙ったものだが、これまでの金融政策の失敗を国民に取らせようとするものだという指摘もされ、経済政策を丁寧に説明していただきました。参議院選挙の後に、株に年金基金を投入して5兆円もの損失を出したことが報じられたが、先生はこの株式投資の失敗を講演会で既に指摘されていました。

結城先生は安倍政権の経済政策のさまざまな問題点を指摘され、質問にも丁寧に答えていただき、第1回市民講座は盛会のうちに終わりました。(S)

〔子どもたちに届けられたプロペラ紙とんぼ〕

十月十八日 桜区である催しがあった	うまく作ることができたり
佐山さん武田さんに	じょうずにとばすことのできた
応援してもらって	よろこびというものが
その工作教室で	あったのかもしれない
プロペラ紙とんぼを作った	それはまた
	自分自身への信頼のようなものが
三才四才五才の子どもたちが	芽生えるよろこびというもので
今	あったかもしれない
お母さんお父さんとも作った	
そのプロペラ紙とんぼを	お母さんお父さんにしてみても
とばしている	わが子とひさしぶりに
にこにこ	いっしょに作った
にこにこしながら	よろこびというものが
とばしている	そこにあったのかもしれない
幼い子たちにしては	あるいは また それは
とてもじょうずにとばしている	わが子が思いのほか
	じょうずに作ったり
その子どもたちの周りを囲む	とばしたりする姿に
お母さんお父さんたちもまた	わが子の成長や
その子どもたちのようすを	ある意味でのたくましさに出会った
にこにこ	よろこびであったかもしれない
にこにこしながら	
ながめている	子どもたちも
	お母さんお父さんたちも
そこには	けて
子どもたちの	大はしゃぎするというのでは
お母さんお父さんに	なかったけれど
手伝ってもらって	それは
いっしょに作ることでできた	どこか
よろこびというものが	私の心に残る光景であった
あったのかもしれない	
あるいは また	
自分が思いのほか	

2014.11.12

T・Kさん

【切り抜き帳】（東京新聞から）

・政府は参議院選挙後の22日、名護市辺野古沿岸部の埋め立て承認を取り消した翁長知事が撤回の是正指示に従わないのは違法との確認を求める訴訟を起こした。また、米軍専用施設「北部訓練場」の一部返還をめぐりこれまで止めていたヘリパッドの工事も再開。500人もの機動隊を沖縄県外から派遣して暴力的に進める手法。辺野古でも和解勧告を受けて中断していた基地建設工事のうち陸上部分の工事を始めるとした。

沖縄選挙区では現職の閣僚が落選し、基地反対の伊波洋一さんが当選したことは皆さんご存じのとおり。明確に示されている基地反対の沖縄の意思を踏みにじるこれらの行為に、現地では激しい抗議活動が展開されています。内地からも連帯して声をあげましょう。

・この夏は、福島原発事故が起きてから初めて政府が呼びかける「節電要請」がない、家庭や企業で節電の取り組みが広がったことと、再生可能エネルギーが普及、電力の供給力が高まったためです。原発ゼロでも余裕があるのです。

引き続きの節電で、原発ゼロをさらに進めていきましょう。鹿児島では原発反対を公約に掲げた三反園訓さんが知事に当選しました。私たちの行動で少しずつ変えることができるということです。

【会の活動報告】

〈学習会〉

○6月19日（日） 第1回桜区市民講座（2面参照）

〈署名活動〉

○6月 7日（火）18時～ 南与野駅

・通行人は多いのに、署名は少なめ、「戦争なんてするはずがない」という人も

○6月19日（日）17時30分～ 西浦和駅

・市民講座終了後、引き続き署名活動をしました

○7月 5日（火）18時～ 中浦和駅

・署名をしてくれた中学生や高校生と話ことができました

○7月19日（火）18時～ 南与野駅

・参議院選挙の結果を受けて署名をしてくれる人の「思い」を感じました

【会のこれからの予定】

〈原爆絵画展〉

○8月17日（水）～19日（金）プラザウエスト1Fギャラリー

〈定例会〉

○8月6日（土）10時30分～ 栄和公民館

○9月3日（土）10時30分～ 大久保公民館

【桜区平和を考える会について】

安全保障関連法案（戦争法案）制定反対の署名活動や桜区役所のギャラリーで原爆絵画展を行ったことなどをきっかけに、昨年12月に発足しました。桜区に在住・在勤あるいは活動している市民の会です。

桜区平和を考える会発行

連絡先：090-8588-4966（今井）

090-4433-7092（小高）

090-6120-3411（佐藤）